

国語科学習指導略案

2年4組 26名 指導者 赤石裕樹

本授業では、以下の検証を行うものである。
 虫めがねを用いて書きたいことを焦点化させたり、語彙表を用いて描写的な言葉を広げたりすることは、書こうとする題材の必要な事柄をより豊かに伝えるための手立てとして有効であったか。

1 単元 きろくしよう 「かんさつ名人になろう」

2 指導計画 (総時数12時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 観察記録文のモデルと生活科で書きためてきた観察記録との比較から、学習課題を設定する。 「かんさつ名人ブック」を作ろう。	1
	2 学習計画を協議し、学習の見通しをもつ。 【関：身近なものに関心をもち、そのものの様子がよく伝わるように書く活動に見通しをもちながら、学習計画を立てている。】	1
情報をもとに考える	3 観察記録文モデル①と②を分析的に読み、観察記録文の構成要素、観察の視点や観点を捉える。 【書：観察記録文を書くときの構成要素、観察の観点や視点に気付いている。】	2
	4 うごきを観察して記録する観察記録文を書く。	3
	5 ようすを観察して記録する観察記録文を書く。	2
	6 ようすを観察して記録する観察記録文(2回目)を書く。 【書：書こうとする題材の必要な事柄をより豊かに伝えるために、材料を多面的に集め語彙や表現技法を工夫したり、構成を考えたりしている。】 【言：主語と述語のつながりやつなぎ言葉、語彙などに気を付けて書いている。】 【書：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合っている。】	2 (本時)
主体的に表現する	7 かんさつ名人発表会をし、「かんさつ名人ブック」を作る。 【書：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。】	1

3 本時 (10 / 12)

(1) 目標

書こうとする題材を焦点化し、書くために必要な事柄を多面的に集めたり、語彙や表現技法を工夫したりして記録する文章を書くことができるようにする。

(2) 評価規準

書こうとする題材を焦点化し、書くために必要な事柄を多面的に集めたり、比喩や擬態語等を用いたりして、記録する文章を書いている。 【書く能力】

(3) 指導に当たって

導入では、観察記録文では書きたいことを焦点化して書く必要があることを、トリックアートや子どもが実際に書いた観察記録文のモデルと自分が書いた観察記録文を比較させることで気付かせ、もっと観察記録名人に近づきたいという思いを膨らませていく。

展開では、まず、虫めがねを用いて、書きたいことを焦点化して観察することのよさを実感させた後、観察メモを使って観察させる。観察メモにまとめさせる際には、観点ごとに色の異なる付箋紙に書かせることで、多面的に材料を集めることができるようにする。次に、観察メモを基に、観察カードに観察記録文を書かせる。ここでは、「たとえのことば」や「ようすをあらわすことば」を用いて書かせることで、観察メモを膨らませるようにする。また、構成を考える際には、観察メモの付箋紙を操作させることで、様々な構成のパターンを試しながら、自分が書こうとする題材の必要な事柄をより豊かに伝えるための最良の構成を選ぶことができるようにする。

終末では、数名の子どもの観察記録文を紹介し、称賛することで、本時の学習を振り返らせるとともに、今後の学習への意欲付けを図る。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価
つかむ 見通す	5	<p>1 前時までの学習を想起し、本時の課題をつかむ。</p> <p>・ていねいにかんさつするって、どんなふうにかんさつすることだろう。</p> <p>・〇〇さんの観察記録文は、花のことだけについて、書かれているな。</p> <p>2 学習のめあてを確かめる。</p> <p>ていねいにかんさつして、きろくする文しょうを書くには、どのようにかんさつし、書けばよいのだろうか。</p>
		<p>3 観察のこつを捉える。</p> <p>(1) 書きたいことを焦点化する。</p> <p>(2) 多様な観点で観察する。</p> <p>4 観察メモに観察したことを書く。 (ペアで：10分)</p> <p>・形は、長細いまるです。</p> <p>・色は、うすい黄色です。</p> <p>・大きさは、小さかったです。</p> <p>・手触りは、つるつるしています。</p> <p>・においは、いいにおいがしている。</p> <p>5 書くこつを捉える。</p> <p>・「たとえのことば」や「ようすをあらわすことば」を使うと、読む人に自分の伝えたいものようすが、もっと分かりやすく伝わるね。</p> <p>6 観察メモを基に観察記録文を書く。 (一人で：10分)</p> <p>・ミニトマトに黄色い花がさきました。花の形は、〇〇にしています。大きさは、おはじきぐらいの大きさです。手で触ってみると、つるつるしています。かおを近づけたら、赤いトマトと同じにおいがしました。</p>
調べる	30	<p>7 観察記録文を紹介する。</p> <p>・「たとえのことば」や「ようすのことば」を使って、書けているな。</p> <p>・花のことについて、ていねいにかんさつできているな。</p> <p>8 本時の学習をまとめる。</p> <p>○ 自分の書きたいことをきめて、そのことについて、ていねいにかんさつするとよい。</p> <p>○ ようすをあらわすことばをつかってくわしく書いたり、たとえのことばをつかって、みんなが知っているものにたとえて書いたりするとよい。</p> <p>9 次時の学習への期待感をもたせる。</p>
まとめる・振り返る	10	<p>トリックアートや書きたいことを焦点化して書くことができている子どもの観察記録文を紹介し、自分の観察記録文と比較させることで、書きたいことを焦点化して書くことよさに気付かせ、本時の学習の見直しをもたせる。</p> <p>トリックアートや虫めがねを用いることで、書きたいことを焦点化して観察する方法を捉えさせる。</p> <p>観点ごとに色の異なる付箋紙を用いることで、自分の書きたいことを多面的に集めることができるようにする。また、観察記録文を構成する際に、操作しやすくする。</p> <p>※ 書こうとする題材を焦点化し、書くために必要な事柄を多面的に集めたり、比喩や擬態語等を用いたりして、記録する文章を書いている。 (観察メモや観察カードへの書き込み)</p> <p>○ 書こうとする題材を焦点化し、多面的に材料を集めたり、比喩や擬態語を用いたりして記録する文章を書いている子どもには、構成にも気を付けて書くようにさせる。</p> <p>○ 書きたいことを焦点化して、多面的に材料を集めることができている子どもには、教師と対話をしながら書きたいことや様々な観点到に気付かせるようにする。比喩や擬態語等を用いて記録する文章を書けていない子どもには、語彙表を参考にさせたり、教師と対話をしながら語彙を増やしたりするようにする。</p> <p>観察記録文を書かせる際には、観察メモで用いた付箋紙を操作しながら構成を考えさせることで、様々な構成のパターンの中から、自分の伝えたいものがより伝わる構成を選択できるようにする。</p> <p>書くために必要な事柄を多面的に集めることができた子どもや、「たとえのことば」や「ようすをあらわすことば」を用いて、豊かに表現することができる子どもを紹介し、称賛することで、本時の学習を振り返らせるとともに、今後の学習への意欲付けを図る。</p>